

令和4年度授業改善推進プラン

	授業における課題や学力調査資料から見えた課題	授業改善のための具体策	成果と課題(年度末)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 習った漢字を使うことが課題である。(全国の正答率から20%程度低い) 「話すこと・聞くこと」について課題がある。(都の平均から約17%低い) 自分事として捉えて、聞くことが苦手である。 無回答率が都の平均回答率を大きく上回っている。 学力調査より、自分の考えをまとめることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中で、文章にして表す学習活動をより多く取り入れる。また、読書感想文なども活用し、文を作る際に習った漢字を伝えるように繰り返し指導を行う。 読書に親しむことも文章力向上に有効である。通年での読書活動の啓蒙、図書時間を引き続き生かしていく。 漢字の読み書きの力を習熟させるため、各教科で横断的に習った漢字を使うよう指導する。また、ドリル学習を週に4回宿題にする。 友達と考えを伝え合う時間を設け、自分の考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> 資料から必要な情報を抽出し、活用することが課題である。 調べたことを自分の言葉を使ってまとめることが課題である。 言葉や意味など基本的なことを覚えていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元ごとに、ノートや新聞にまとめる学習を行う。 実物を提示することやワークショップ等の体験を知識と結び付けることで理解を深め、自分の言葉でまとめられるようにする。 ICTを活用して自主的な学習ができるツールを用意する。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> 学力テストより「数と計算」に課題が見られた。・分数のわり算を苦手とする児童が多い。逆数を忘れたり、約分のできる数字を見落とすことが多い。東京ベーシックドリル診断シートの結果から倍数・約数を苦手とする児童が7割ほどいることが分数の約分の見落としにつながっていることが分かった。 文章問題に抵抗を感じる児童が多く数直線を活用せずに立式し、正しくもとにする数を見つけれず間違えることが多い。 全体的に前学年までの学習の習熟が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 数学的な考え方をするために必要な基本的な計算力の向上や、公式の理解・暗記などを習熟度別少数指導やパワーアップタイム、ミライシードの活用により繰り返し練習を取り入れ、基礎力をつける。 問題文を整理して、数直線や図に表して考える作業を繰り返し取り入れ、題意を読み取る力をつける。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> 観察や実験には意欲的に取り組んでいる。 観察や実験を考えた理由や結果を文章化することが苦手である。 6年の学力テストから、用語や実験器具の名前を覚えることが苦手である。 6年の学力テストから、記述式や短答式の問題形式で無回答率が高くなっている。 6年の学力テストから、グラフの読み取りと目視できない現象(水分の気化など)への理解に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験の予想の段階や結果から考察の時に、文章にして書くことを実施する。また、単元の終わりに単元振り返りシートを実施し、繰り返し学習をするとともに、文に書くことを実践する。 授業の始めに前時、前年度の復習を行い、用語の確認をする。 他教科でもグラフの読み取りは意識して指導すること、実例を出したり視覚的な教材で具体的に組みませる。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の2年間、歌えない時期・マスクを付けた状態で優しい声で歌うなど、発声や呼吸法を実践を通して学習できなかったため、歌唱の技能が身に付いていない児童が8割ほどいる。 コロナ禍の2年間リコーダーの学習活動に制限があったため、運指や音色、響きに気を付けて演奏する技能が不十分な児童が6割程度いる。 音楽を形作っている要素などへの理解が不十分な児童が6割程度いる。 学力調査の結果から、話すこと・聞くことについて課題が見られた。音楽の授業でも聴き取ったことや感じ取ったことを言葉で表すことが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 息をたくさん吸って歌うことや、口を大きく開いて発声することなどの基礎的な発声方法を重点的に指導し、家庭学習で実践できるようにする。録音したものを振り返りながら指導する。 リコーダーカバーを活用することで授業中での練習時間を確保し、技能の取得を図る。 毎回、楽譜を見る時に音符、休符、記号や用語について振り返り、音楽活動を通して音楽を形作っている要素などを理解させる 聴き取ったことや感じ取ったことを言葉で表す活動をより丁寧に行う。(音楽のもとを音楽に関連させて) 	
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 絵を描く活動に「うまく描けない」と思い苦手意識をもっている児童が6割ほどいる。 前学年までの材料や用具についての理解は8割程度の児童ができていますが、それらを表現によって組み合わせる活動に課題がある。 学力調査の結果から、話すこと・聞くことについて課題が見られた。図工の授業でも、作品作りや鑑賞活動において、自分の考えを伝えることに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵の美しさが「上手い」「下手」ではないこと。個々の表現が素晴らしいということに気付けるように児童への声掛けの工夫や鑑賞の時間に有意義な交流ができる様に支援を行っていく。 前の学年の記録などを使って、前学年の活動を想起させ、これまでの経験や知識を生かして、活動に取り組めるようにする。 作品作りや鑑賞活動において、伝え合う活動を意図的・計画的に行っていく。 	
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 裁縫は技能面で学習したことを繰り返し行わないことで忘れてしまう児童が多い。 身の周りのことと関連していると結び付けることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業で学んだことを児童が家庭で実践できるように、保護者と連携して還元できる機会をつくる。また、ワークシートを準備して、家庭での実践を評価できるようにする。 自分事として捉え、生活に活かすことができるように身の周りの事象を学習で取りあげるようにする。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> 運動が得意な児童とそうでない児童で二極化がみられる。 自分の課題をみつめて、工夫して改善していくという一連の学習サイクルが身に付いていない。 学び合うことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の実態に応じて場の難易度を調整する。 学習の流れを意識させる授業を行う。 教え合うポイントを明確にしたり、ワークシートを活用したりして、学び合いがしやすい環境を整える。 コーディネーショントレーニングを通して、体の使い方を学ばせる。 	
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 一つ一つのアルファベットを正確に書けない児童が多くいる。 全体の前で発表に向けて家庭学習や反復練習に自分から取り組まない児童が多く見られる。 学力テストの結果から、思考・判断・表現に課題があった。 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉に出しながら繰り返し取り組み、全部のアルファベットを書けるようにする。 発表に対して、前向きに取り組んでいると感じた児童をほめ、学年の雰囲気を作る。家庭学習や反復練習について、声かけの回数を増やす。 既習事項を総動員して、会話やスピーチができるような場面を増やす。 	
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートには自分の思いを書くことができる。 自分の気持ちを全体に共有することが苦手である。 文章の内容の読み取りで、自我関与させて気持ちまで捉えるのに時間がかかるときがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の考えを肯定的に受け止める。児童が発言しやすい雰囲気をつくる。少人数での話し合いをすすんで取り入れ、時には意図的指名をして全体に広める。 ワークシートに書いたことをもとにペア、グループと段階を踏むことで自分の思いを伝えられるようにする。 登場人物の状況や環境などを視覚化して黒板に示すなどして、視覚的に理解させて自分事にする。 	
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> 探究的に学習に取り組むことが苦手である。途中で飽きる傾向がある。 必要な情報を見つけることができるが、その情報から整理分析して、次の課題を生み出すことが苦手である。 グループ活動のときに、パソコン操作、友達とじゃれ合うなどして遊び始めてしまう児童がいる。 パソコンを使って調べることに慣れている。 	<ul style="list-style-type: none"> 調べたところから新たな課題や探求が生まれるように声かけしたり、グループ間での交流の時間を設けたりする。 学習課題を新たに提示したり、やるべきことを示したり、時間を提示したりしてメリハリをもって取り組む環境を作る。 パソコンでスライドやドキュメントを作る時に、インターネットからのコピーだけで作成していることがあるので、思考ツールの活用や表・グラフ化などをして、そこから整理分析をするような指導をする。 	

※ 枠の大きさは適宜調整して、1枚に収まるように作成してください。

<p>成果 ・図書の時間や朝読書の時間を活用したことで多くの本に慣れ親しむことができた。 ・繰り返し、文をつくる練習をしたことでB層が10%あがった。構成の仕方を理解することができた。 課題 新出漢字は覚えられるが、既習の漢字の定義に課題が見られた。小テストでの確認や既習したものを活用しているかも確認しながら繰り返し指導する必要がある。+P5.T9</p>				
<p>成果 ・ワークショップで体験と知識を結び付けたことで理解を深めることができた。 課題 資料の読み取りに課題がみられ</p>				
<p>成果 ・繰り返し条件を制御する実験をしたことで、実験の進め方が定着した。ノート指導を徹底したことで、児童の疑問から主体的に学習を進めることができた。 ・問題に対する予想では、どうしてそう考えたのか理由まで説明することがまだ難しいので、視点を絞れるようにノート指導をしていく。</p>				
<p>成果 ・授業で学んだことを家庭でくり返し実践できるように連携したことで、裁縫の技能面の向上を図ることができた。 課題 身の围いにある事例と学習と結び付け</p>				
<p>成果 ・児童の実態に合わせた場の設定を細かく行ったことで課題と向き合い技能の向上が図れた。 ・コーディネーショントレーニングを通して、体の使い方を運動の中で身に付けることができた</p>				
<p>成果 ・一つ一つの単語を繰り返し発話する時間を確保することで、集団でも自信をもって発表する姿が6割程度見られた。発表や発話を価値付けることで、自信をもち進んで活動する児童が1割程度増えた</p>				
<p>成果 ・どの児童に対しても肯定的に意見を受け止め続けたことで発言が活発になった。 ・ホワイトボードを活用することで積極的に意見の交流や共有をすることができた</p>				
<p>成果 ・児童から疑問や課題がでてくるような資料提示ができたことで考えが広がり、主体的に学ぶ姿がみられた。思考ツールを活用することで考えの整理分析ができるようになった。</p>				
<p>課題</p>				